

美しい音楽でつつられるドラマチックなステージ

5月4日(祝・金)～6月18日(月) 雪組公演 三井住友VISAミュージカル『エリザベート』—愛と死の輪舞(ロンド)—



「死」の象徴であり、エリザベートを盲目的に愛するトートを、水夏希が熱演 ©宝塚歌劇団 Photo by 宮原夢画

宝塚歌劇では、5月4日(祝・金)～6月18日(月)、雪組公演三井住友VISAミュージカル『エリザベート』—愛と死の輪舞(ロンド)—を上演。1996年の初演以来、多くの人に支持されてきた名作が、2年ぶりに登場します。この春、名作と会いに歌劇へ出かけてみませんか。

宝塚歌劇

黄泉の帝王とオーストリア皇后の ドラマチックな愛と死のストーリー

1996年の雪組初演以来、再演を重ね、観客動員数143万人という大ヒットミュージカルとなった「エリザベート」。宝塚歌劇を代表する作品のひとつである大作が、6度目の公演として2年ぶりに大劇場に帰ってきます。

そのドラマチックなストーリーは、華やかなヨーロッパのオーストリアを舞台に、美しく、自由奔放なエリザベートがオーストリア皇后になったことからたどる数奇な運命を描きながら、彼女を愛する黄泉の帝王、トートとの関係を軸に展開します。

1853年、綱渡りに挑戦しようとした少女のエリザベート。ロープから落ち、意識不明となり冥界をさまよいます。そこで、冥界の住人であり、死の象徴でもあるトートが彼女を見初め、生命を助ける代わりに、彼女の愛を得ようとしています。こうして、二人の「愛」と「死」の輪舞が始まってゆきます。

「死」の象徴トートを絡

ませた独創的なストーリー、人間の内面を映し出す無常観、王座の栄華と斜陽を、

主役トートを演じる 新トップ水夏希に期待

ウィーン・ミュージカル「エリザベート」は、1992年、オーストリアのアン・デア・ウィーン劇場で初演、98年までロングランされた後、ハンガリー、スウェーデン、オランダ、ドイツでも人気を博しました。宝塚版「エリザベート」は、主役をトートへ置き換え、日本の観客にわかりやすく脚本をアレンジ。今回の雪組公演で、トートをひと際、ステラリッパに演じるのは、今作でトップお披露目となる水夏希。エリザベート役には白羽ゆい。二人の演技に注目が集まります。

さらに、今春は、オリジナル・ウィーン版「エリザベート」も梅田芸術劇場にお目見え。同作品に「一層注目が集まっています。今回の上演中に、700



運命に翻弄されるエリザベートには、華やかな魅力を持つ白羽ゆいが ©宝塚歌劇団 Photo by 宮原夢画

宝塚歌劇「エリザベート」の軌跡

これまで5組全組で上演された「エリザベート」はそれぞれに見どころや特徴が。その歴史を振り返ります。

●1996年 雪組

初演となる今作の初代トート役は一路真輝、エリザベートに花總まり(写真)。一路真輝が見事に難曲を歌いこなし、「エリザベート」は彼女の代表作に。

●1996年 星組

トート/麻路さき、エリザベート/白城あやか。麻路さきが、その美しい容姿で「魅せるトート」を披露。

●1998年 宙組

トート/姿月あさと、エリザベート/花總まり。姿月あさとが、力強い歌声で、新しい印象のトート像をつくりあげる。

●2002年 花組

トート/春野寿美礼、エリザベート/大鳥れい。春野寿美礼トップお披露目と大鳥れいのサヨナラ公演で、メモリアルなステージに。

●2005年 月組

トート/彩輝直、エリザベート/瀬奈じゅん。彩輝直のサヨナラ公演。男役の瀬奈じゅんがエリザベートを演じ、話題に。強い女性像で「エリザベート」の新たな1ページを開く。



1996年雪組公演より ©宝塚歌劇団

問い合わせ
宝塚歌劇インフォメーションセンター
☎0570(00)5100

午前10時～午後5時、水曜休
※携帯電話、PHS、IP電話で、利用できない機種もあります。
<http://kageki.hankyu.co.jp/>